

平成27年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第1学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	・漢字、語彙、文法などの言語に関する知識が乏しい生徒が目立つ。また、話の中心的内容を把握する力が弱い。文章を読み慣れていないことと語彙力が乏しいことが原因であろう。したがって、自分の考えを文にまとめる力、構成を考えて、文章にする力、的確な言葉で表現する力、工夫した表現をする力が身につけていない実態につながっていると考える。	・言語事項の育成のために、言語知識を確認する定期的な小テストを実施する。文章読解力のために、多様な文章を読ませ、目標を重点化させた読解法を学ばせる。また、出題形式にも慣れさせるため単元毎の演習問題にも取り組む。作文は総合的な力が必要なため、単元毎に書く活動を取り入れ、相互交流を行い評価、添削する機会を増やす。	・言語知識の定着に向けた取り組みを積み重ねた結果、繰り返し練習を続け、漢字、語句に対する抵抗感が薄れた。辞書を引く力、短文を作る力を身につけることができた。今年度の作文指導の最後における鑑賞文の学習では、観点を決めて、具体的な事例を示して構成の整った600字程度の文章が書けるようになった。読解力の伸張が課題である。
数学	・数量関係について知識・理解が乏しく、発展的な問題を解く力のない生徒が多い ・基本的な技能問題を解くことはできるが、図形の体積や、割合、比の計算をする力が不十分である。	・授業の冒頭に小プリントに取り組むことで、知識や技能の問題を繰り返し解き、学習内容の定着を図る。 ・文章問題や応用問題に対する苦手意識をなくすために、類似した問題を何通りも解かせ、詳しく解説していくことで考え方を身に付けさせる。 ・授業の中で自分たちの身の回りに関することを例に挙げ、考える力を伸ばしていく	・小プリントに取り組む時間があまりなかったが、教科書の問題を繰り返し解くことで、学習内容を定着することができたと感じる。 ・生徒が意欲的に学習できるよう、基礎的・基本的な知識技能をさらに定着させることが課題である。
社会	・授業に対して意欲的に取り組み定期考査で結果を出す生徒と、そうでない生徒の差が大きく、二極化が進んでいる。	・授業では前時の授業の学習内容をしっかり復習する。定期考査前に「重要用語マスター」などに取り組みさせ、基礎基本の定着を図る。	・毎回の授業で、前時の授業内容を復習することで、基礎的・基本的な知識の定着することができたと感じる。
理科	・意欲的な生徒が多く、基礎的な知識や技能がついてきているが、それらを応用し、発展的な問題に取り組む力がまだ十分ではない。	・課題解決学習を多く取り入れ、生徒同士の話し合い、発表などの活動をより充実させる。	基礎基本の内容から、科学的に論理を組み立て議論できるようになってきた。今後は実験の方法などについて考える場面も作っていく。
音楽	・主体的に表現しようとする姿勢、態度が乏しい。学習に向かう姿勢がやや消極的である。	・パートリーダー等、リーダーを育て、リーダーを中心に生徒間で練習をしたり、音楽づくりをする態度を養い、自ら表現しようとする姿勢を身に付けさせる。	パートリーダー中心の練習、音楽作りができるようになりつつある。男子の表現に向かう姿勢の育成が課題。
美術	・創意工夫し表現の幅を広げるのが苦手な生徒がいる。	・工夫された作例や実演をみせる機会を増やす。個別に声をかけ、表現したいイメージに近づけるための方法等をアドバイスする。	個別に声かけを行った結果、表現の幅を広げることができた生徒が増えた。今後は生徒同士の作例を鑑賞し合う時間を増やし、学び合いの場面を増やしていく。
保健体育	・専門的な技術の習得が不十分である。	・繰り返し取り組み、できない生徒には個別に声かけを行い、技術を習得させる。	授業への意欲は大変高く、積極的に取り組めたが、各単元で技術の習得には個人差が大きく課題となった。
技術・家庭	〈家庭〉進度の遅れが目立つ生徒がいる。 (技術)年度当初は落ち着きのない生徒もいたが、静かに聞けるようになった。しかし個々の理解度については疑問が残る。	〈家庭〉個別の呼びかけ、アドバイスを行う。 (技術)理解度を深めるため、より詳しく、理解しやすい授業を行う。また生徒が自ら考える説明を心掛ける。	〈家庭〉忘れ物や提出物のチェックを行い改善を図った。 (技術)授業で丁寧な説明を心掛けた結果理解度が高まった。
外国語(英語)	・上位層と下位層の学習意欲、学力差が大きく、中間から下位層が比較的多い。 ・英語への関心が薄く、苦手意識をもっていたり、必要性をあまり感じていない生徒もいる。 ・家庭学習をあまり行っていない生徒が多いので、単語や文法などの基礎的な力が定着していない。	・ALTの授業などで英語を聞くこと、話すことの楽しさを実感させる。 ・予習(単語)や復習(本文を書き写す、日本語訳を書く)を通して、ノート作りを丁寧に行わせる。 ・基礎的な力をつけるための繰り返しの小テストを毎回授業の初めに行い、不十分な部分は家庭学習として練習を重ねさせる。 ・定期的に小テストに関連した単語・短文テストを行い、それを記入するグラフ・表を作り、結果を一目瞭然にさせることで、自分の足りない部分を把握させる。	・ALTの授業では、発問に対し比較的意欲をもって答えていたことから、英語を聞いたり話したりする楽しさを実感させることができた。 ・予習チェックを毎回行い、ノート作りを習慣づけた。 ・繰り返しの小テストを行うことはできたが、家庭学習で具体的に何を行うべきかの指示が徹底できなかった。 ・定期的に単語・短文テストを行い、グラフに記入させた。

平成27年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第2学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話す能力、聞く能力や読む能力は概ね習得しているが、書く能力に劣る。また、関心・意欲・態度に二極化の傾向が著しい。言語能力に関しても同様で、これが語彙を減少させ、書く能力が向上できない一因となっていると考えられる。 ・文学的文章から登場人物の心情を想像することはできるが、説明的文章の事実と意見を分けることや、要点を押さえる力が不足している。全体を通し、文章を読む速度が非常に遅い。 ・選択式の解答はするが、記述式解答に手がつけられていない状態の生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙数を増やすため、類義語、対義語、慣用句など言語に関する領域を学力向上テストに盛り込む。 ・文章を読む速度を上げるため、新聞や随筆、短文章の読み取りを中心とした教材を取り入れる。また、長文読解では、記述式設問を増やす対応を行う。 ・意見文や感想文に留まらず、多くの場面で自らの考えを文章でまとめる学習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語を中心とした語彙数を増やす取り組みの成果が、日常会話に表現され始めた。 ・長文読解能力を向上させるための記述式設問を増やす試みは、長く複雑な文章でも短時間で要点をとらえる力を養えた。 ・自分の意見や感想をまとめ、いろいろな場面で発表する力の育成は充分達成できたとは判断できず、この点が来年度の中心的課題である。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解が不十分で解けない問題がある。 ・技能問題では計算力は悪くないが、作図や円錐の体積を求める問題などは苦手な生徒が多い。 ・文章問題では観点に限らず正答率が極端に低くなっている。応用力や数学的知識を活用する力が低い。 ・数学的な見方や考え方の問題はかなり理解力不足である。 ・読み解く力に関する内容では、「解決する力」の正答率が10%を下回っている。「読み取る力」は都の平均を上回っているが正答率は約44%であり、やはり課題である。 ・「関心・意欲・態度」では83%を越えているが、都の平均を5ポイント以上下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度効果を得た授業の冒頭に行く基礎的・基本的な内容の確認テストを実施し、技能や知識・理解の問題を反復して行うことで修得を目指す。 ・問題の苦手意識を無くさせるために、興味のある話や身近な話の文章問題を取り扱う機会をなるべく多く設定し指導していく。 ・文章題など同じような問題でも、複数通りの解法を提示し理解させることで数学的な考え方を伸ばす。 ・授業の中で興味を引く内容を取り入れて指導していくと同時に家庭学習の確実な習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストは実施できなかったが、授業で既習内容を繰り返し学習することで基礎的・基本的な内容は、概ね身に付けさせることができた。 ・数学的な見方や考え方を身に付けさせることで上位層の更なるレベルアップを図りたい。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・理解」が都平均よりも1.9ポイント下回っている。基礎的な授業内容が定着していないことが分析できる。 ・「解決する力」は都平均を上回っているが、正答率は約43%であり、課題であると考ええる。 ・「関心・意欲・態度」が都平均よりも1.4ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業冒頭に前回の授業内容の確認テストを行う。また、導入では確認テストの語句を活用して答えられる発問をし、授業を振り返る。繰り返し復習することで、基礎的・基本的な知識を定着を目指す。 ・資料から正確な情報を読み取る力は非常に高いと分析できる。その情報を活用して思考させるような学習課題を増やしていく。 ・授業の中で、生徒が主体的に学習するように、興味関心の引くような教材提示や発問を計画していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で、確認テストを実施し、前時の授業内容を復習することで、基礎的・基本的な知識の定着を図ることができたと感じる。 ・グループワークや討論といった言語活動を増やしていくことで、生徒の思考する場面を意図的に設定していきたい。 ・生徒がより自主的に学ぶよう、関心意欲を高めるような教材を開発していくことが課題であると考ええる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の内容については、すべての観点において都の平均を上回った。特に技能においては、都の平均を9.4ポイント上回り、実験・観察に重きをおいて、授業を進めてきた成果が出た。思考・判断・表現と知識・理解は都の平均の1ポイント程度上に留まっている。また読み解く力については、読み取る力、解決する力が都の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解を高めるために、用語問題の小テストを計画的に進めていく。理科の用語を用いて考察を行わせる時間を多く取り、思考力を養う。問題演習、課題解決学習を用いて、「読み取る力」、「解決する力」を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、理科の用語を用いて議論や発表ができるようになってきた。今後は実験レポートでより深く考察させ、さらに力を伸ばしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現しようとする姿勢、態度が乏しい。学習に向かう姿勢がやや消極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パートリーダー等、リーダーを育て、リーダーを中心に生徒間で練習をしたり、音楽づくりをする態度を養い、自ら表現しようとする姿勢を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのクラスも積極的に音楽活動するようになりつつある。今後もリーダー中心の活動ができるよう授業の工夫をする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークで自分の考えをはっきりと伝えるのが苦手な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品コンセプトを明確にさせ、言葉で表現する機会を増やす。対話することで表現の幅が広がることを実感できるように、変化の例などを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品コンセプトを題材毎に明確にさせ、話し合わせることで、自分の意見を言える生徒が増え、学び合いも深まった。今後も自己や他者の表現意図について深く考えさせることを大切にする。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に取り組むが、集中力が続かない生徒がいる。 ・基本的な体力が身に付いていない生徒がいる。 ・専門的な技能の習得が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡潔な指示と、見通しをもたせた指導を行う。 ・毎時間取り組む補強運動を強化する。 ・専門的な動きや、競技の特徴を理解させ、繰り返し取り組み、技術の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示を出すタイミングや、先を見通した指示をすることによって、集中して取り組ませることができた。 ・毎時補強運動を取り組ませ、筋力についてはきたが、持久力にまだ課題が残る。 ・段階的に教材を取り組ませ、より専門的な動きや技術を習得できた。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・〈家庭〉集中力を保つことが難しく私語をしてしまう生徒がいる。 ・〈技術〉真剣に取り組んでいるが、コンピュータ操作について進度の差が大きく出てしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〈家庭〉クラス全体で注意提出日と残り時間を明確にし個別の呼びかけをする。 ・〈技術〉普段コンピュータに接していない生徒にも、完成させるだけの時間を確保する。また操作の早い生徒に対しては、ワークシートなどの教材を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〈家庭〉忘れ物や提出物のチェックを行い改善を図った。 ・〈技術〉授業時間を確保するのが大変だった。また技能面の能力で2極化が進んでおり、作業の進んでいる生徒のための課題の準備が必要である。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や理解の能力はあるが、それを使った表現力(特に話すことや書くこと)に課題が見られる。 ・上位層と下位層の習熟度の差が激しい。 ・英語に対しての苦手意識からか、関心・意欲の低い生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチや英作文の作成・発表など。授業で得た基本的な知識を、アウトプットする機会を多く設定する。 ・ペアワークやALTとの活動を通して、英語を話したり聞いたりする楽しさを体感できる授業づくりに努める。 ・予習や復習を宿題として提示し、ノート作りを丁寧にを行うよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの機会は学期に2回ずつ確保できた。会話文のアレンジを積極的に行う姿勢が見られた。 ・習熟度に合わせた発問をし、活動につなげた。会話の練習を楽しんで行えた。 ・予習と復習の徹底が次年度の課題である。苦手な生徒に対し、継続した支援が必要である。

平成27年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第3学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話す聞く能力がたいへんに高く、読む能力もこれに比例して高い数値を示している。反面、自らの意見をまとめる点において語彙力の不足が目立つ。漢字や語句の意味は理解できても、表現する時点で言葉の選択、識別が困難になると思われる。 ・文章から事実と意見を識別し、自らの考えや意見を記述する能力が不足している。文学的文章での登場人物の心情変化などの読み取りは充分に対応する能力があるが、説明的文章の要旨を捉える力はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やすために学力向上テストの内容に、語句の意味や類義語、対義語など言語知識を問う設問を多く入れて実施する。 ・文章の読解能力を維持発展させるため、板書以外に口述筆記の授業展開を意図的に増加する。また、説明的文章の読解の際、段落要旨を短作文で記述する展開を多用する。 ・国語に関する興味関心を高める教材や読書意欲を喚起する授業の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中的に四字熟語や故事成語など語彙に関する知識を増やし、継続して反復学習させたことは効果的であった。 ・国語の興味関心を高める読書教材を多数導入したことは、文章読解能力を育成する効果を生んだ。 ・興味関心をもてる学習教材の開発が今後の課題である。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎計算力は身に付いてきているようだが、十分とは言えない。 ・数量関係を比べたり、関数の関係にあることがらを見出す活用力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において計算の確認テストなどを行い、定着を目指す。 ・1, 2年の既習事項とのつながりをもたせ、関数についての知識理解を深めることで、数学的な活用力を身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別の各クラス計算のプリントに取り組み、反復と継続して繰り返しすることで計算力は定着したと感じる。 ・入試の過去問を選定し、関数の問題に重点をおいたことで、関数の見方が向上した。 ・生徒がより自主的に学ぶよう、関心と意欲を高めることが課題であると考え。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容が定着していない生徒が見られる。教科書大字レベルの用語の周辺にある知識まで身につける必要がある。 ・あまり復習がなされておらず、前の授業内容が理解できていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業冒頭の小テストで、必要な知識の確認と定着を図る。 ・授業の導入は必ず前の授業内容の確認を行う。ただ説明するだけでなく、質問をし、思い出させるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で、確認テストを実施し、前時の授業内容を復習することで、基礎的・基本的な知識の定着することができたと感じる。 ・今後は単元へ一回程度、小テストを実施し、復習する機会を増やし、基礎基本の定着を図る必要があると考える。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・濃度計算や科学的な思考を要する問題で、都の平均を下回るものがあつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習をとりにいれ、問題に慣れる場面をつくる。 ・授業の冒頭の小テストでも、1年生からの簡単な計算問題をいれ、定着するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題の反復練習を行ったことにより、計算力が向上した。 ・単純な計算ではなく、少し応用問題になってくると正答率が大きく下がってしまったが今後の課題である。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・積極性はあるが、けじめのつかない行動をする生徒がおり、授業の進行を妨げることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかり話を聞かせる。ルールを考えて行動する姿勢、態度を身に付けさせる。 ・興味・関心の高い題材を選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱に対する取り組みは大変よかった。表現に乱暴さが残ってしまったのが課題。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・発想力や構想力の源となるものを見つけるのが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間で作品の制作過程を鑑賞し合う機会を増やす。身近な美術作品(展覧会やメディアなど)を紹介し、視野を広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な美術作品や生徒同士の作品などを鑑賞することにより、発想力を高めた生徒が増えた。今後は現在活躍しているアーティストの作例なども取り上げていく。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が得意な生徒と、不得意な生徒の二極化がある。意欲にも差がある。 ・専門的な技能が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのような主体的に取り組める教材を工夫し、運動が不得意な生徒でも積極的に取り組めるようにする。 ・専門的な動きや、競技の特徴を理解させ、繰り返し取り組み技術の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム要素を取り入れた教材を充実させ、不得意な生徒でも楽しく取り組み意欲を向上できた。基礎基本的な技術をより向上させる。 ・段階的に教材を取り組ませ、より専門的な動きや技術を習得できた。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 〈家庭〉多くの生徒は真面目に取り組んでいるが意欲に欠ける生徒もいる。 (技術)情報処理のプログラムは、初めて取り組む生徒も多いため、できるだけ詳しく進めているが、なかなか意欲のもてない生徒もいる。また、意欲的な生徒は物足りなさを感じていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈家庭〉提出日と残り時間をさらに明確にし個別の呼びかけをする。 (技術)生徒間で教え合うことを指示する。個別にアドバイスをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈家庭〉総合学習の時間で体験した赤ちゃんのチカラプロジェクトの影響もあり、「幼児の成長に関すること」や「家族について」の意識や意欲が高まった。 ・忘れ物や提出物のチェックを行い改善を図った。 (技術)技能や興味・関心の面で2極化が進んでおり、題材選びに工夫が必要であった。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・上位層と下位層の学力差と学習意欲の差が大きい。 ・リスニング、長文読解の力が弱い。 ・正確な文法知識に基づいて英作文を書く力が弱い。 ・発言は意欲的であるが、語彙が少なく英語表現が身についていないため、言いたいことを表現できる力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な語彙と読解のトレーニングとして、音読・単語テスト・読解練習を行う。 ・読む練習と同時に、集中して英語を聞く時間をできるだけとる。 ・授業でドリルをさせたり、家庭での練習を課す。 ・書く練習も大事にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読指導に時間をかけ、基本的語彙が覚えやすくなるように意識させた。 ・リスニングやALTの授業を活用し、集中して英語を聞く時間を確保した。 ・プリント学習の時間を確保し、宿題を定期的な課したが、家庭学習の徹底が不十分である。